

特集

あなたのまわりに 侵略的外来種が…

岡谷市では、良好な環境を将来にわたって継承し、地球環境保全や人と自然が共生していくために、岡谷市環境基本計画を定め、目標達成に向けた取り組みを続けています。

しかし、そのためには、市民のみなさんもいっしょに取り組んでいかなければならない、さまざまな問題があります。そのひとつが、外来種問題です。すべての外来種が悪いというわけではありませんが、生態系に大きな影響を与える「侵略的外来種」も確かに存在しています。

今回は、外来種問題とはどのようなものなのか、考えてみましょう。



侵略的外来種ってどんなもの？

外来種とは、もともとその地域に生息していなかったものが、人間の活動によって、ほかの地域から入ってきた生物のことをさします。そのなかでも、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性をおびやかすおそれのあるものを、「侵略的外来種」といいます。

岡谷市でも、「日本の侵略的外来種ワースト100」に入っている、多くの生物の繁殖が確認されています。

魚類では、オオクチバスやコクチバス、ブルーギルなどが、諏訪湖や天竜川で確認されています。

ペットとして飼っていたものの、飼いきれなくなつて捨てたという事例も多くあります。代表



かわいい花でも侵略的外来種のオオハンゴンソウ

的なものが、ミシシッピアカミミガメ（ミドリガメ）ですが、攻撃性の強いカミツキガメも、近隣で捕獲されたことがあります。

また、植物では、アレチウリ、オオキンケイギク、ほかにオオハンゴンソウやハリエンジュなど、さまざまな種類の外来種が見られます。

このように、みなさんの周りには、たくさん侵略的外来種が繁殖しています。繁殖力が強く、在来種の生息域を侵食していくものや、アレチウリのようにほかの植物を枯死させてしまうもの、ブラックバスのように在来種を捕食するもの、カミツキガメのように人に危害を与えるものなど、被害はさまざまですが、本来の生態系に大きな影響を与えています。



木にもからみつき覆うアレチウリ

侵略的外来種による被害を予防する3原則

1. 入れない

悪影響を及ぼすおそれのある外来種を、むやみに地域へ入れない。

2. 捨てない

飼っている・栽培している外来種を適切に管理し、野外に捨てない。

(逃がさない・放さない・逸出させないことを含む)

3. 拡げない

すでに野外にいる外来種を、他地域に拡げない。(増やさないことを含む)

3原則のなかの、「拡げない(増やさない)」については、駆除を行い、繁殖を抑えることで成果をあげることができます。それには、市民のみならずの力が必要です。植物の駆除は比較的容易なので、ご協力をお願いします。次のページでは、近隣に多い外来種と駆除のポイントをご紹介します！

オオハンゴンソウ (キク科) 学名: *Rudbeckia laciniata* L. 英名: cutleaf coneflower

同じオオハンゴンソウ (*Rudbeckia*) 属の全種が規制の対象

(通称ルドベキア、ハナガサギク)



オオハンゴンソウの下部の葉
幼个体(左)と成長个体(右)
成長个体は5~7つに深く分裂



同属の植物: アラゲハンゴンソウ →

〈駆除のポイント〉

1. 開花結実前(6~8月)に、地下部を含めた植物体すべてを掘り取る。
2. 刈り取る場合は、開花結実前(6~8月)と、地上部が最大高の時期(7~8月)の年2回以上実施。
3. 刈り取りは低い位置がよい。
4. 作業時の土壌かく乱を避け、埋め戻す。

〈特徴〉

北アメリカ原産の多年生草本で、植物高は50~300cm程度。

花は直径5~7cmで、黄色。開花は夏から秋(7~10月)。

地下茎の下部の葉は長い柄があり、幼个体は切れ込みが浅いが、成長すると5~7つに深く分裂。上部の葉は短い柄があるか、無柄で互生。葉の裏側に短毛がある。

種子から増えるほかに、地下茎からの栄養繁殖でも分布を広げる。

園芸種が導入され、逸出した個体が、在来植物の生育場所を奪っていることが問題となっている。

生育地は道ばたや河川敷などで、特に湿った土壌条件で優占群落を形成し、日本各地に分布を拡大。

諏訪湖や周辺河川の地域では、特に湖岸や河川敷、畑地などで定着。

オオキンケイギク (キク科) 学名: *Coreopsis lanceolata* L. 英名: lance-leaved tickseed

同じハルシャギク (*Coreopsis*) 属の全種が規制の対象



茎の根元から多数の葉が放射状につく



〈駆除のポイント〉

1. 開花結実前(5~7月)に、地下部を含めた植物体すべてを掘り取る。
2. 刈り取る場合は、開花結実前(5~7月)と、地上部が最大高の時期(7~8月)の年2回以上実施。
3. 刈り取りは低い位置がよい。
4. 作業時の土壌かく乱を避け、埋め戻す。

〈特徴〉

北アメリカ原産の多年生草本で、植物高は30~70cm程度。

花は直径5~7cmで橙黄色。開花は初夏(5~7月)。

根生葉は長い柄があり、はじめはへら状、やがて3~5つに分裂。葉の両面に粗い毛がある。

種子から増えるほかに、地下茎からの栄養繁殖でも分布を広げる。

園芸種が導入され、逸出した個体が在来植物の生育場所を奪っていることが問題となっている。

生育地は道ばたや河川敷、線路ぎわ、海岸などで、日本各地に分布を拡大。

諏訪湖や周辺河川の地域では、特に湖岸や河川敷、堤防法面や道路ぎわなどで定着。

アレチウリ (ウリ科) 学名：Sicyos angulatus L. 英名：Bur cucumber

同じアレチウリ(Sicyos)属の全種が規制の対象



巻きひげで拡大するアレチウリ群落

似ている植物：クズ(マメ科・在来種)は→
3つの小葉で1つの葉ができています



〈駆除のポイント〉

1. 開花結実前(6～8月)で幼個体の時期に、植物体すべてを掘り取るか、抜き取る。
2. 年に複数回実施。
3. 作業時の土壌かく乱を避け、埋め戻す。

〈特徴〉

北アメリカ原産の一年生草本で、生長が早いつる性植物。巻きひげでほかのものに巻きつき、全長は数m～十数mにもなる。

花は直径1cm程度で、黄白色。開花は夏から秋(7～10月)。

葉は広いハート形で両面がざらつき、長い柄があり、互生する。

果実には鋭いトゲが密生。大量の種子を作り、土中で休眠し、翌年に増える。

作物などの種に混じって侵入、定着した個体が在来植物の生育場所を奪い、問題となっている。

生育地は畑地、荒地、林縁、河川敷、道ばたなどで、日本各地に分布を拡大。

諏訪湖や周辺河川の地域では、特に湖岸や河川敷、畑地、道路ぎわなどで定着。

アレチウリ

	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生態				結実		
			開花			

オオキンケイギク

	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生態				結実		
		開花				

オオハンゴンソウ

	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生態					結実	
			開花			

侵略的外来種の積極的な駆除をお願いします

これらの植物は、市内でも、道路沿い、空き地、水辺など、多くの場所で繁殖しています。結実前に駆除を行うとより効果的ですが、外来種と確認できたら、積極的な駆除をお願いします。

また、オオキンケイギクなどは、園芸種として販売されていたこともあり、みなさんの家の庭に咲いているかもしれませんが、法律により「特定外来生物」に指定されたものは、栽培・保管なども禁止されています。一見“きれいな花”でも、その地域の生態系に与える影響を考え、駆除をしていかなければなりません。

地域の自然のバランスを守るため、みなさんのご協力をお願いします。



問合せ●市民環境課(内線1142・1143)